

拠点形成研究交流報告：戸田、伊藤、原田によるワーゲニンゲン大学訪問と共同研究打合せ

本研究拠点形成事業のメンバーである、食品化学分野・戸田雅子、機能分子解析学分野・伊藤隼哉、分子生物学分野・原田昌彦の3名が、2019年12月1-2日にオランダ・ワーゲニンゲン大学の Prof. Geert Wiegertjes の研究室を訪問して、共同研究についての打合せと実施を行いました。

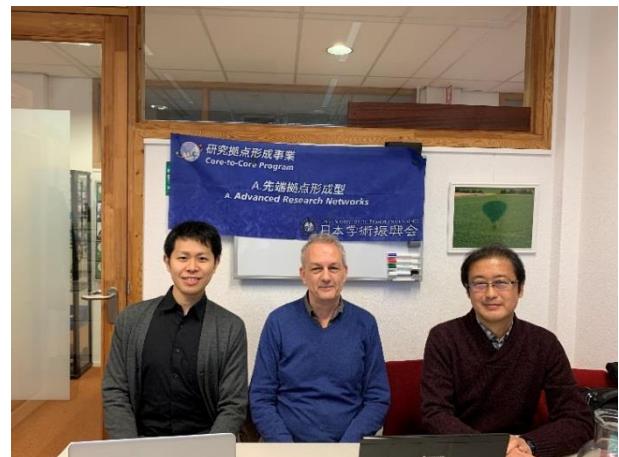
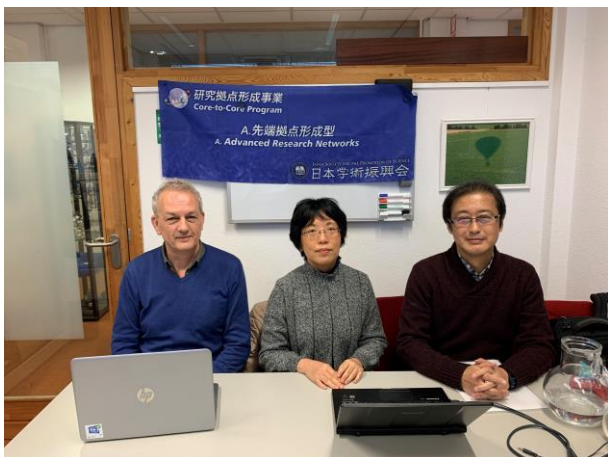
戸田、伊藤は、昨年度3月にもワーゲニンゲン大学訪問しました。戸田はこれまでに、食品中に含まれる免疫機能性を持つ成分に関する研究を行っています。今回の訪問では特に、食品成分がどのように免疫細胞の代謝を変化させて免疫応答に影響を与えるか、すなわち免疫代謝 (Immune Metabolism) の解析に関する討論を行い、具体的な共同研究を推進する打ち合わせとなりました。伊藤は分析化学を基盤とし、食品や生体に含まれる機能性成分の解析に関する研究を進めています。今回の打ち合わせでは、特に脂質分子の解析を通じた生体での酸化ストレス評価に関する研究紹介と議論を行いました。ワーゲニンゲン大学における研究分野の近い研究者をご紹介いただけるなど、今後の共同研究を推進できる打ち合わせとなりました。原田と Prof. Wiegertjes は、これまでも魚類免疫機構のエピジェネティック制御に関する共同研究を実施しており、今回は、共同研究の実施方針を確認すると共に、最近得られた興味深い実験データの解釈についても論議を行いました。また、メールや電話では難しい、実験器具や生物試料の取り扱いなどにもついて、実験担当者を交えた討論を行うことができ、今後の共同研究の推進に大いに役立つ情報を得ることができました。

さらに今回の滞在では、2020年3月に予定されている、Wageningen 大学と東北大学の研究者の間での魚類遺伝学に関する共同研究打合せ、および次世代放射光を利用した生物試料イメージングに関する共同研究についても、具体的な進め方を決定することができました。今後、これらの分野においても、両大学間での共同研究が進展することが大いに期待されます。

長時間に渡った研究室での打合せの後、クリスマスシーズンが始まったワーゲニンゲンの街で、Prof. Wiegertjes を囲んで様々な情報交換を行うことができました。

このような実り多い滞在をサポートいただいた JSPS 研究拠点形成事業に感謝いたします。

戸田雅子、伊藤隼哉、原田昌彦（東北大学大学院農学研究科、食と農免疫国際教育研究センター）



(Prof. Wiegertjes 研究室にて。今後の共同研究の推進に大いに役立つ情報を得ることができました。左から、Prof. Wiegertjes、戸田、原田 (左写真)、伊藤、Prof. Wiegertjes、原田 (右写真))